



OSAKA PALCOOP ECO REPORT 2023

A circular collage of colorful icons representing various aspects of sustainable development. The central element is a green and blue globe. Surrounding it are numerous icons: renewable energy sources like solar panels and wind turbines; nature elements like trees, leaves, birds, and fish; and human-made structures and activities like factories, houses with solar panels, bicycles, and recycling symbols. The icons are arranged in a circular pattern, creating a sense of a complete cycle or a holistic view of sustainability.

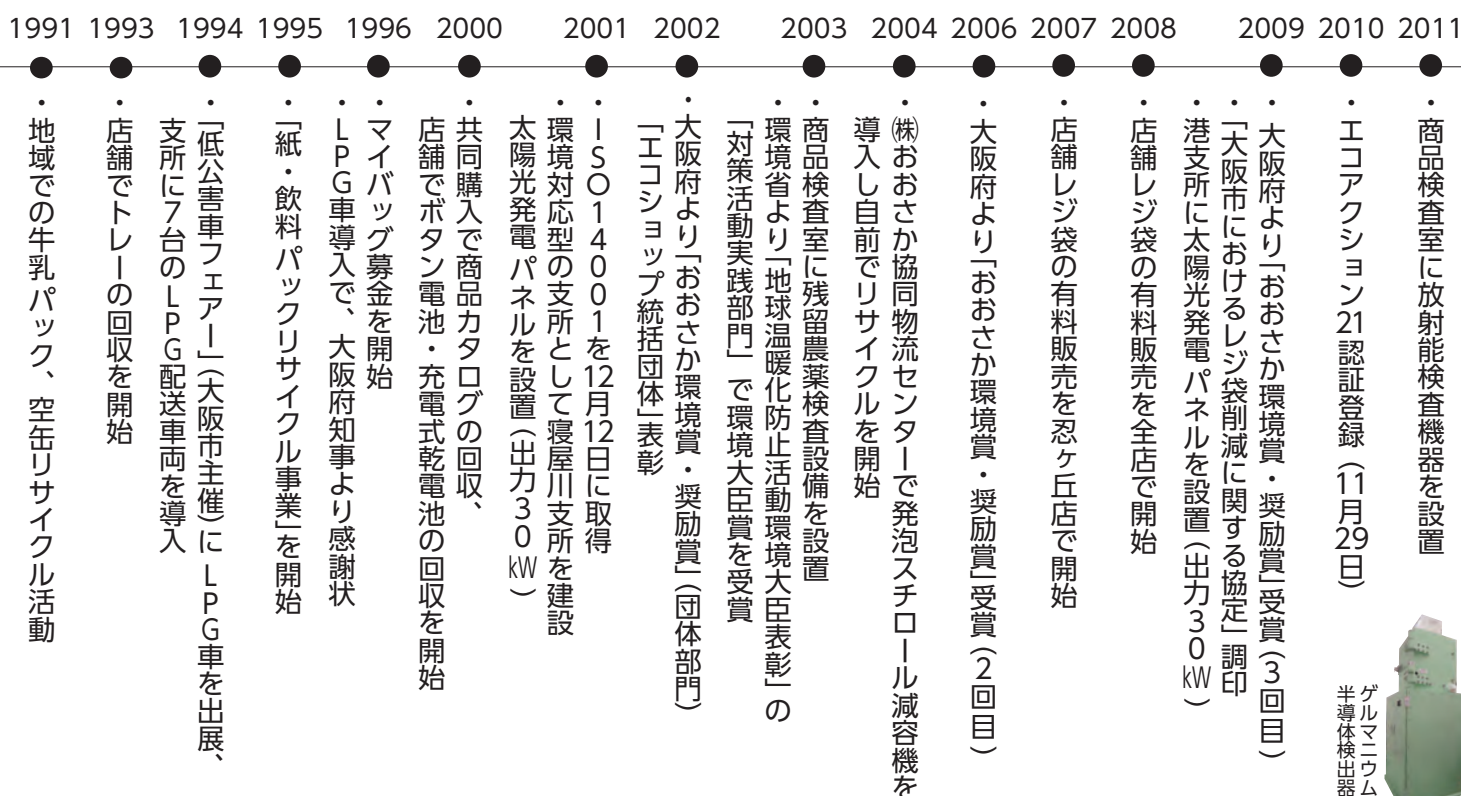
「環境活動のまとめ」発行にあたって

2023年3月、世界各国の科学者でつくる国連のIPCC=「気候変動に関する政府間パネル」は、温室効果ガスの削減対策などに関する報告書を公表しました。

報告書によると、2030年の世界全体の温室効果ガス量では、地球温暖化が21世紀の間に1.5℃を超える可能性が高く、2℃より低く抑えることが更に困難になり、人為的な地球温暖化を抑制するにはこの10年の温室効果ガス排出削減の水準によって決まるとしています。

私たちは生命や暮らしを守るために、これ以上の温暖化を食い止める行動を大胆に起こすことを求められています。

これまでの主なあゆみ



「子どもたち・未来のために、美しい地球のために」

子どもたちに自然環境のすばらしさを伝えていくことは、大人としての課題です。

未来を生きる子どもたちに美しい地球を渡せるよう、生協として地球温暖化防止の社会的責任を積極的に果たし、事業と活動をすすめていきましょう。

2023年5月

環境マネジメント推進委員会





環境マネジメントシステムを活用して 事業をすすめています

環境方針

基本理念

おおさかパルコープは、持続可能な循環型社会の実現を目指し、環境問題を重要な課題と位置付け、組合員とともに環境保全活動に積極的に取り組みます。

基本方針

おおさかパルコープは、組合員を対象とした食料品など生活関連の商品供給事業及び共済、福祉事業や旅行、チケット、暮らし関連などのサービス事業を行っています。こうした事業活動から発生する環境に大きな影響を及ぼす項目について、技術的かつ経済的に可能な範囲で環境目標、環境活動計画を定めて取り組み、環境負荷の軽減と汚染の予防、生物多様性の保全への配慮、環境マネジメントシステムの継続的な改善を行います。

1. 環境に配慮した商品やサービスの取扱いと普及をすすめます。
2. 地球温暖化防止のために、CO₂ 排出量削減に取り組みます。
 - ・積極的に省エネルギー機器導入に取り組みます。
 - ・電気、ガスの使用量削減に取り組みます。
 - ・配送効率や運転技術の向上、エコドライブの推進で車両燃料の削減に取り組みます。
3. 廃棄物の削減、リサイクルに取り組みます。
 - ・紙などの資源を効率的に使用し、使用量削減とリサイクルに取り組みます。
 - ・店舗では食品廃棄ロス基準を守り廃棄物の再生利用等に取り組みます。
 - ・組合員とともに、容器包装、商品案内チラシなどの回収リサイクルや、買い物袋持参に取り組みます。
4. 資源の有効活用、節水に取り組みます。
5. 商品検査室で検査に使用する化学物質の使用量確認を行い、適正管理を推進します。
6. 環境関連の法令、条例及び受け入れを決めたその他の要求事項を遵守します。
7. 組合員による環境活動を積極的に支援し、持続的発展を可能とする循環型社会構築に向けた社会的活動に広範に取り組みます。
8. 以上の活動を進めるために、職員に対する環境教育と環境コミュニケーションを積極的にすすめます。

この環境方針はおおさかパルコープの内外に公開するとともに、環境活動の取り組みの状況について定期的に公表します。

2001 年 7 月 21 日制定
2021 年 6 月 8 日改定
生活協同組合おおさかパルコープ

理事長 奥井 和久

事業活動にともなう環境負荷を最小限にとどめることに継続的にとりくむため、環境省が定めた環境マネジメントシステム「エコアクション 21」を活用し、各事業所ごとに立てた計画に対して、とりくみの進捗と目標が達成できているか、外部の審査機関の審査・認証を受けています。



2022 年度も 2023 年 1 月に 3 日間、14 事業所の審査を受けました。
環境へのとりくみが評価され「適合」の結果でした。

2022年度 主な環境目標の実績と評価

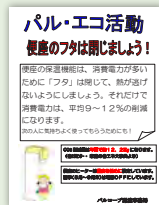


事業所や部署ごとに、2022年度は25項目の目標を持ちました。

21項目は目標を達成したり、実施することができましたが、4項目は目標を達成することはできませんでした。毎年目標の見直しを行いながらとりくみを継続します。

活動と評価

電気使用量



前年対比
101.4%

パル東住吉福祉センターや安治川支所の稼働により、増加しました。

ガス使用量



前年対比
99.8%

全支所で食堂が稼働したことにより増加しましたが、京橋事務所・店舗・福祉センターで減少したため、全体では減少しました。

水道使用量

ここから
ミストが出ます



前年対比
96.1%

熱中症対策で支所に設置したミスト発生装置の管理がすすみ、減少しました。

ハート栽培 農産物の 取り扱い

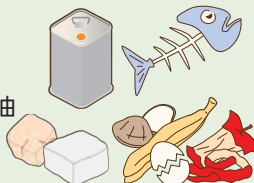


104品目の認証と
152件の
お届け前検査

ハート栽培農産物の実態把握を産地点検・農薬検査などで実施しています。環境に優しい農業生産の推進は、産地の環境保全にもつながるとりくみです。

食品ロス削減のとりくみ

1. 野菜くずや消費・賞味期限の切れた食品
2. 調理に使った食用油
3. 魚のアラ
4. 畜産品の脂



すべての合計で
317トン

全店で食品ロス削減のとりくみをすすめています。

車両燃料使用量



燃料使用量前年対比
108.4%
車両台数前年対比
109.7%

夕食サポーターを直雇用にしたため、前年対比で車両保有台数は109.7%と増加していますが、車両燃料使用量は108.4%とおさえられています。

環境にやさしい電気自動車(営業用)を2支所(枚方支所・都島支所)に計5台導入しました。また、2022年11月より稼働した安治川支所と2023年3月より稼働した樋之上支所には、将来を見据え、支所倉庫の各ホームに電気自動車専用のコンセントを設置しました。2023年も計画的に入れ替えを行なっていきます。

■ 電気自動車



枚方支所

■ 電気自動車専用コンセント



安治川支所



地球温暖化防止のためCO₂排出量削減の とりくみをすすめています

2022年度のCO₂排出総量は約12,153トンとなり、前年対比で101.2%と増加しました。

また、原単位*でも19.4トンから20.2トンに増加しました。

*原単位：CO₂排出量を供給金額で割り算して、CO₂排出量を算出し、削減にとりくむ方式です。

毎年、設備改善と運用管理の強化でCO₂排出量の削減にとりくんでいます。多くのCO₂を排出する事業者の社会的責任として、これからも削減のとりくみを積極的にすすめていきます。

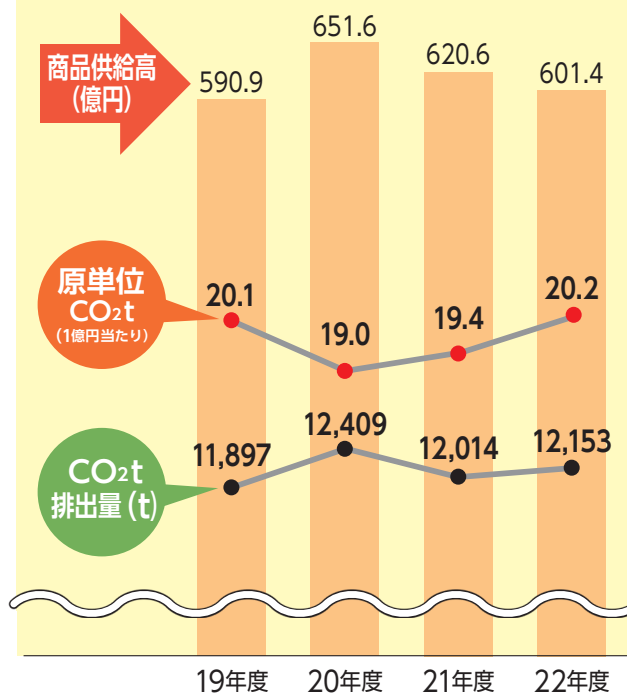
日本生活協同組合連合会ではCO₂排出量の総量削減をすすめるために、全国の生協と協力して「温室効果ガス総量削減計画」をすすめています。「2030年度に、生協全体のCO₂排出量を2013年度対比で40%削減」を目標としています。

全国生協のCO₂排出総量削減目標

2030年度に2013年度対比で**40%削減**

CO₂排出量の抑制 経年の推移と評価

電気使用CO₂排出係数：0.423kg-CO₂/kWh
(日本生協連、全国統一CO₂排出係数)



2022年度
パルコープの
CO₂排出総量
約**12,153**
トン

太陽光発電設備について



(株)おおさか協同物流センター

再生可能エネルギーはCO₂の排出量を大幅に削減し、日本のエネルギー自給率を上げることに繋がります。現在、パルコープでは(株)おおさか協同物流センター(655kW)を含めて785kWの太陽光発電が稼動しています。年間発電量は合計845,282kWhになり、CO₂の排出量で約298トンの削減につながっています。

年間発電量
845,282
kWh

CO₂排出量の
削減効果
約**298**
トン分

設備
太陽光
発電

北枚方支所	50kW
寝屋川支所	50kW
港支所	30kW
(物流センター)	655kW



(電気使用CO₂排出係数：0.352kg-CO₂/kWh)

商品カタログ
回収量
4,049
トン

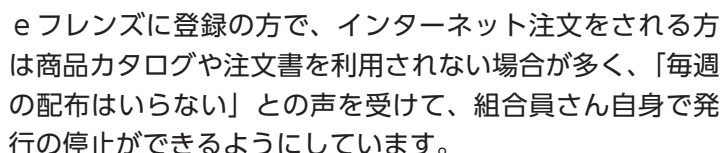
- 2022年4月度～2023年3月度で4,049トンの回収、再資源化につながりました。



配送時に組合員さんから回収した商品カタログ(左)と
商品お届け袋(右)



商品カタログは古紙原料としてリサイクルされています。



2023年 3月
eフレンズ登録人数 **168,633 名**

eフレンズに登録されている方のうち、
64,499名が商品カタログのお届けを
停止されています。

●店舗事業

店舗では販売数の管理徹底など廃棄物を出さない工夫をし、残った食品は有効利用する食品ロス削減のとりくみをすすめています。



食品
リサイクル
157トン

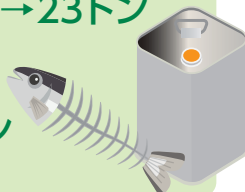
1、食品リサイクル
(野菜くずや
消費・賞味期限の
切れた商品)→157トン



2、調理に使った食用油→23トン

3、魚のアラ→109トン

4、畜産品の脂→28トン



食品リサイクルは 2022 年
4 月度～ 2023 年 3 月度で 157 トンがリ
サイクルされました。

食用油は車両燃料に、野菜くずや魚のアラ、
畜産品の脂などは、飼料原料や油脂として
再利用されます。

店舗のとりくみとして、午前中に調理する
商品を来店の状況に応じて準備をし、夕方
に向けても調理したての商品を提供する事
で廃棄する量が減少しました。

マイバッグのとりくみ



店舗でのマイバッグ持参率
89.5%(2023年3月時点)

2020 年 7 月 1 日よりレジ袋が有料化され、環境省の調査ではレジ袋を使わなかった人が 2020 年
3 月時点で 30.4% だったのが、2021 年 7 月には 70% 以上になりました。

パルコでは、2023 年 3 月時点のマイバッグの持参率は 89.5% で、レジ袋は約 498 万枚削減
されていることとなります。毎年新しい組合員さんを迎える中、マイバッグ持参運動を地道に続けて
いることが、高い持参率の維持につながっています。



レジ袋について

2021 年 3 月より、レジ袋をポリエチレン製の袋
から、バイオマス※ 25% 使用の袋へと変更し、再
生利用可能な有機物の構成を高めています。なお、
マイバッグ持参をすすめるため、有料(1枚 5 円)
での提供は継続しています。組合員のみなさん
には、引き続きご協力をお願いいたします。

※バイオマス：動植物から生まれた再利用可能な有機性
(石油などの化学燃料を除く)の資源の
ことです。

3Rで資源の有効活用を
すすめています



リデュース
Reduce



リユース
Reuse

リサイクル
Recycle

今後も包装資材の代替えや不必要なものの廃止、分別とリサイクル、
消費者の意識と社会システムの整備に向けてとりくみを続けます。

プラスチック製を木製・紙製に

2022年4月1日より、プラスチック資源循環促進法が施行となったことを受けて、店舗で配布しているプラスチック製のスプーンを木製に、ストローを紙製に2022年4月より変更しています。

以前の
プラスチック製



現行の
木製
(スプーン)
紙製
(ストロー)

リサイクル品2022 年度回収量

回収量

商品カタログ		4,049t
共同購入	紙飲料パック	70,110kg
	たまごパック	41,120kg
	商品お届け袋	44,160kg
店 舗	紙飲料パック	16,688kg
	たまごパック	9,697kg
	ペットボトル	31,010kg
	ビン	54,036kg
	缶	9,474kg
	食品トレー	41,111kg
	乾電池類	2,252本
	蛍光灯管(大阪市内)	2,736本
共同購入+店舗	発泡スチロール	20,780kg
	ダンボール	673t



の回ピ
ぼり収
旗ボク
がク
目ス
印と
です♪



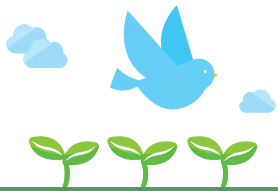
回収ボックスに集まった食材



FOOD BANK
KANSAI
HOME

- 物流センターではフードバンク※活動への商品提供を行なっています。フードバンク関西へは3週間に1回のペースで2022年度は関西の162団体の福祉施設に、7,446kgの提供を行いました。
- 「パルコープこども食堂フードバンク」では、パルコープエリア内の75団体80ヶ所の子ども食堂と6つのシングルマザー支援団体（2023年3月現在）に食材をお届けしています。

※フードバンクとは、包装の傷みなどで、品質に問題がないにもかかわらず市場で流通できなくなるなど、さまざまな理由で処分されてしまう食品を、必要としている人や団体に無償で提供する活動です。



1日エコライフにとりくみました



今回参加人数
5,446名
(組合員+職員)
CO₂削減量
約**1,942kg**

『コープみんなでエコ! 2022』のとりくみ結果

私たちの暮らしの中から二酸化炭素(CO₂)をなるべく出さないことが、地球温暖化防止につながります。エアコンの温度管理や買物袋の持参、ゴミの分別やリサイクル、車は使わず徒歩での外出など毎日の暮らしの中で環境を守るとりくみにつながることはたくさんあります。組合員さんには毎年、OCRアンケートなどを通じて、身近にできることにチャレンジしていただいています。1日エコライフには職員も一緒にとりくみ、合計で5,446名が参加、CO₂排出量で約1,942kgの削減につながりました。



OCR
アンケート

参加いただいた方からの声や工夫されたことを紹介します

1人1日あたりにするとどのくらいCO₂が減っているのかと思いますが、少しずつの積み重ねで良くなる事が大切ですね。



電気をこまめに消し、お風呂の残り水を洗濯や掃除に使っています。電気ストーブも電球を片方だけつけて使用しています。

家族が同じ部屋で生活してエアコンの稼働を3台から1台にできたらもっと良いかと思いました。

知らなかったこと! 自分でできること! 教えてくれてありがとう。

地域や行政と協力し、様々なイベントに参加・協力しました

(コロナ禍のため、多くのとりくみが中止されました。)

ライトダウンキャンペーン

環境省では2003年から16年にわたり、地球温暖化対策のため、ライトアップ施設や家庭の照明の消灯を呼びかける「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」を実施してきました。

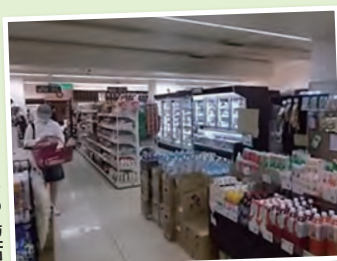
パルコープでも家庭や職場において、周りの電気を消す事で、地球環境の大切さを再確認し、地球温暖化対策について考える契機として、夏至の6月21日とクールアースデー*の7月7日に、各店舗で午後6時から午後9時で店内の一部の消灯を行いました。

*クールアースデー：毎年7月7日の七夕の日に、日本各地で開催される「地球環境について考える日」の事です。

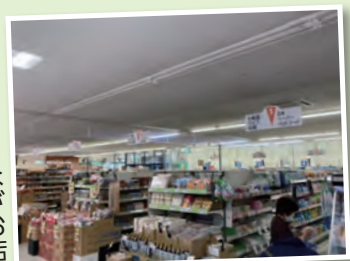
忍ヶ丘店



東都島店



ながお店



打ち水大作戦

2022 年度も枚方市では地球温暖化対策協議会からの要請を受け、2022 年 8 月に枚方市の全店で「打ち水大作戦」にとりくみました。来店いただいた組合員さんより「涼しくなっている」「風流やね」などの声をいただきました。（コロナ禍のため、職員のみで行いました。）



ながお店



星ヶ丘店



枚方公園店

家庭の容器包装プラごみ・使い捨てプラごみ調べ

全大阪消費者団体連絡会などが呼びかけて実施した「家庭の容器包装プラごみ・使い捨てプラごみ調べ」にパルコープから 127 名の組合員さんが参加しました。

参加の組合員さんからは「まじめに数を数えていると、本当にたくさんのごみを捨てていると感じました。プラごみ調べ以降も、ごみを意識して生活しようと思いました。」などの感想をいただきました。軽くて丈夫で衛生的など、良い点もあるプラスチックですが、燃やせば CO₂ を出すなど環境への影響を知るきっかけにいただきました。



省エネチャレンジノート

地球温暖化防止に身近なところからとりくむ、特定非営利活動法人地球環境市民会議（CASA）発行の「省エネチャレンジノート〈2022 年夏〉」には、2 か月版に 16 名、1 週間版に 28 名、子ども版に 3 名が参加しました。

参加の組合員さんからは「普段あまり電気を消してくれない旦那が、“省エネ週間だから”と少し気にしてくれました。」などの声が寄せられました。



※写真は「省エネチャレンジノート〈2023 年冬〉」の冊子です。

OSAKA PALCOOP ECO REPORT 2023



パルコプの組合員さんの中から「自分たちで共同発電所を作ろう」と立ち上がったNPO法人「リアルにブルーアースおおさか」。2014年1月に、ながお店の屋根に設置された20kWの太陽光発電設備は1年間の発電量が21,244kWhとなり、これは一般家庭が1年間に使用するとされている電力量(約3,600kWh)で換算すると6軒分に相当します。火力発電で発電した場合と比べて約7,478kgのCO₂排出を削減できました。



ながお店屋根 太陽光発電設備



「リアルにブルーアースおおさか」の アースちゃん

おおさかパルコプ 概要

2023年3月20日現在

名称 生活協同組合おおさかパルコプ
設立 1991年3月2日
職員数 フル職員1,096人、嘱託職員82人、定時職員1,766人
供給高 599億円
組合員数 44.5万人

共同購入支所数 15カ所
店舗数 9店舗
組合員会館 4カ所
組合員集会室 15カ所



生活協同組合 おおさかパルコプ
大阪市都島区東野田町 1-5-26
<https://www.palcoop.or.jp/>

2023年5月発行